

教育で災害に強い社会づくり

小学生からの防災教育を
検定形式で身に付けてもら
おうという、国内初の「ジ
ュニア防災検定(JBK)」
(内閣府など後援)が来月
8日、スタートする。単に
資格を取るのではなく、事
前課題や事後課題も合わせ
て受けることで、防災への
継続的な関心を持ってもら
うのが狙い。防災に強い人
材を生み出すきっかけにな
りそうだ。(藤浦淳)

70点以上で合格

検定は、小学3～5年生
の初級、小6生と中学1年
生の中級、中2生と中3生
の上級の3段階。検定の内
容はまず、受検前に事前課
題が出される。家庭で、家
具の転倒防止や備蓄食糧、
いざというときの安否確認
の方法など、防災、減災に
ついて話し合い、課題シー
トにまとめる。

試験当日の問題は、災害
の種類、歴史、科学、社会
の4分野から出題。事前の
勉強は必要なく、当日考え
ることができるよう工夫さ
れている。最後に事後課題
として、自由研究方式でポ
スターや壁新聞などを作

「ジュニア防災検定」来月8日スタート

成、提出する。

3つの課題の総得点が70
点で合格となる。しかし、
主催する一般財団法人「防
災検定協会」事務局長、浜
口和久さんは「ふるいに掛
けて落としていく検定では
ない。全員の合格がわれわ
れの希望です」と強調。あ
くまで「防災教育」の理念
として貫かれる。

東日本大震災では、日頃
から津波に対する防災教育

を受けていた岩手県釜石市
の子供たちが自分たちの判
断で巨大津波から逃れるこ
とができた。同協会の平野
啓子理事長は「震災後、い
かに防災教育が大切かがは
つきりしました。現場での
教育に検定を利用し、将来
の災害に備える社会をつく
ってほしい」と話す。

各地に広がる

1回目の試験は小学3年



ジュニア防災検定について語る平野理事長
—東京都千代田区

ジュニア防災検定

社会人向けに比
べ、子供向けの防
災教育が進んでいないことに危機感を感じた教育、防災、メディア関係者などの間で「ジュニア防災検定」を始めようという機運が高まり、昨年9月、設立準備委員会を結成。今年5月、一般財団法人

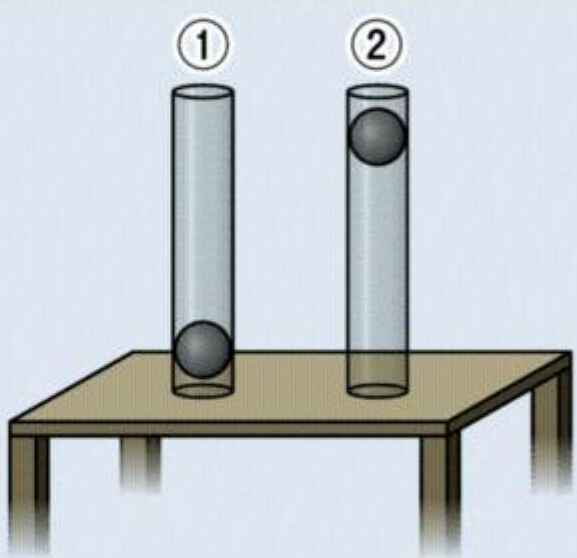
「防災検定協会」を立ち上げた。

子供たちに防災力を付けてもらうことを目的に、①日頃から災害に備えられる「知識としての防災」②災害時に生命を守る行動ができる「自助のための防災」③防災・減災に何ができるかを考えることができる「共助・公助としての防災」

を目指す。

問題作成は進学塾「日能研」が協力した。○や×で正解を問う問題ではなく、試験会場で自ら考え、防災の力を身に付けられるように問題が工夫されている。知識、想像力、行動力が養われる新しい検定となることを目指す。

検定テスト問題例(初級)



軽いプラスチック筒の中に①、②のように粘土玉を入れて机(つくえ)をゆらすと、①が②より倒れにくい。これを踏まえて下の問いを考えてください

問い

地震のときに、左に描かれたたなが倒れにくくするために、あなたは何段目に何を入れますか? 理由とともに説明しなさい



生から中学1年生を対象に、国学院大学渋谷キャンパス(東京会場)と追手門学院大手前中学・高校(大阪会場)で実施。学校別に多数の受検がある場合は個別に対応する。日大豊山や佐野日大など日本大学グループの中学各校や神奈川県座間市教育委員会、東京都港区教委、関西の追手門学院大手前中学校、九州でも熊本マリスト学園中学など

が受検を決めるなど動きは各地に広がっている。座間市の遠藤三紀夫市長は「検定をきっかけに防災意識の高い人材を育て、災害に強いまちづくりを目指したい」と話している。問い合わせと申し込みは、防災検定協会 ☎03・3556・5055、メール (info@jnk.jp.net) で。12月8日の検定試験申し込みの締め切りは11月11日。